

神奈川県金融経済概況（2014年12月）

I. 概況

神奈川県の景気は、基調的には緩やかに回復しているものの、生産面を中心に弱めの動きもみられる。

すなわち、企業部門をみると、生産は、在庫調整などにより、弱めの動きとなっている。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、全体としては改善傾向にある。個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は和らいでおり、基調的には底堅く推移している。この間、住宅投資は駆け込み需要の反動減が続いている。公共投資は底堅く推移している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 在庫調整などにより、弱めの動きとなっている。

- ・ 輸送機械は、在庫調整や生産移管などにより、弱めの動きとなっている。
- ・ 素材関連は、自動車向け素材は持ち直しつつあるものの、化粧品や住宅向け素材が減少しており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、情報通信機械を中心とした在庫調整の動きや電子部品・デバイスにおける生産移管等の影響から弱めの動きとなっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、工作機械などは引き続き緩やかに増加しているものの、半導体等製造装置などに一服感がみられており、全体としてはやや低調な動きとなっている。

(2) 輸出： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 一部の新興国において弱めの動きがみられており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 12月短観における、14年度の設備投資計画をみると、一部では投資を減額・先送りする先もみられるものの、製造業では維持・更新投資に加え、需要増加を受けた増投資の積み増しが計画されているほか、非製造業では新拠点・新店舗の設置などが計画されており、引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体としては改善傾向にある。

- ・ 10月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.03倍と、前月（1.01倍）の水準を上回った一方、9月の現金給与総額は前年比▲0.2%となった。

(5) 個人消費： 消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は和らいでおり、基調的には底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、駆け込み需要の反動から持ち直した後、足許では高額品の販売が堅調な一方で、天候要因から衣料品販売が振るわず、全体としては前年比若干のマイナスが続いている。
- ・ スーパー売上高は、駆け込み需要の反動から持ち直した後、一進一退の動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、駆け込み需要の反動から幾分持ち直したが、前年割れが続いている。
- ・ 新車登録台数は、駆け込み需要の反動から幾分持ち直した後、このところほぼ横ばいで推移している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況をみると、来客数が増加しているほか、県内ホテル・旅館の稼働状況も高水準で推移している。

(6) 住宅投資： 駆け込み需要の反動減が続いている。

- ・ 住宅着工戸数は減少している。

(7) 公共投資： 底堅く推移している。

- ・ 11月の公共工事請負額は、前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向けの伸びが続いているほか、中小企業向け貸出に動意がみられており、引き続き増加している（貸出金末残前年比：9月+0.9%→10月+0.7%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差：9月▲0.010%→10月▲0.002%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加している（実質預金末残前年比：9月+2.7%→10月+2.6%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。